

令和4年度

社会福祉法人 希桜会
事業報告書

■ 法人本部

■ 軽費老人ホーム

ケアハウス サニー秋桜

■ 地域密着型介護老人ホーム

きさらぎ荘

みやのぎ荘

■ 小規模多機能型居宅介護事業所

うめの香

たちばな倶楽部

法人全体

<総括>

今年度は大幅な物価高騰による水道光熱費の増額、食材費への影響、そして新型コロナウイルス（オミクロン株）による市中感染が拡大し、各施設でも罹患者への対応に追われました。また、介護職員の離職や看護職員の不足、施設長、管理者の交代があったため、求人活動やそれに伴う経費の増大等で経営は今までにない厳しい状況となりました。

「介護人材の確保・育成・定着」「安定した経営」「サービスの質の向上」「感染症・災害対策の強化」等の多くの課題が山積みする中、年明けよりコンサルティングを導入し、組織と事業運営を抜本的に立て直すべくスタートしました。次年度は組織一体化のために理念・コンセプトの明確化を徹底し、ひとつひとつの課題解決に努めていき、職員・家族・地域において信頼と存在感を高められるよう、取り組んでまいります。

<令和4年度における重点項目に対する評価>

年間計画	評価・取り組み
(1) 感染症対策の継続	新型コロナウイルス感染症の予防策として、勉強会の実施・マスク着用・手洗い・消毒・換気・3密回避の感染予防対策に努めたが、施設入所者や通所利用者に感染者がでたことにより、サービスの一時停止や隔離・待機等があった。 しかし、感染拡大を防ぐことができた。感染症予防体制の中にあっても利用者一人ひとりのサービスの質を落とすことがないように努めた。
(2) 人材定着への取り組み	職員の求人・採用活動も継続したがなかなか定着できず、派遣スタッフでの補完割合が高く経費が嵩んでしまった。採用時のミスマッチも多く、採用・育成プログラムを計画的におこなっていけるプロセス・仕組みづくりが急務であるとする。外国人の介護職員については、ミャンマーからの技能実習生が令和5年3月より4名きさらぎ荘とみやのぎ荘で元気に働いている。また、法人の資格支援制度を活用し実務者研修に参加する等で準備し、介護福祉士国家資格に4名の合格者が出ている。
(3) 各事業所間の連絡・連携の強化	新型コロナウイルス感染症予防のため、ユニットリーダー・看護職員拠点間合同会議の実施は見送りとなった。次年度はzoom等を用いて開催の工夫を検討したい。
(4) 職員の資質向上	今年度はコロナ禍により、社内研修・外部研修参加の見合

	<p>わせも多く、十分な教育・研修を受けさせることができなかった。次年度は外国人職員受け入れを機会に職員の意識向上に努め、新人・中堅・管理者等各クラスにおいて計画的な教育プログラムの作成実施に努める。</p>
(5) 利用者の健康増進	<p>日々の入所者・利用者のバイタル測定（血圧・脈拍・体温）にて健康管理を行うとともに毎月体重測定を実施することで健康管理に努めた。必要に応じて利用者の健康相談を行い、介護者（ご家族）への情報提供を行うことで、在宅生活の継続を支援した。</p> <p>食事に関しては多職種で協働し、経口での食事摂取を維持していけるように何度もミールラウンド（食事場면을観察し実際のお食事の摂取状況から咀嚼能力・口腔機能・嚥下機能・姿勢などに関して評価する）を重ね、その方にあった最適な食事を摂取して頂くように努めた。</p> <p>職員に口腔ケアに関する技術指導を行うことで、個別的に実施される口腔清掃や摂食・嚥下機能に関する情報を共有し口腔ケアの維持・向上に努めた。</p>

令和4年度 サニー秋桜事業報告書

I. 取り組みに対しての評価

1. 入居者処遇

① 入居者情報の徹底

☞高齢化する入居者の緊急時対応、日常生活の中での心身の変化に迅速・適切に対応できるように基本情報の更新をおこない、職員間で情報を共有することができた。

② 入居者情報の徹底及び生活ニーズの把握

☞入居者からの介護サービスの申請・利用の希望を受け、地域包括センターや在宅介護支援センターとの連携を図り、その方の状態に合わせた支援を提供できた。しかし、介護サービスを利用していない入居者に至っての施設支援計画は十分に作成できておらず、次年度への持ち越しとなった。

③ 介護予防運動・健康体操、ラジオ体操の充実

☞介護・認知症予防に重点を置いた健康体操やトレーニングを定期的を実施し、参加者にも概ね好評であった。毎日のラジオ体操は体力や運動機能維持のため積極的に参加を呼びかけ、毎日10人程度は参加されるようになった。

④ 食事

☞給食委託業者とも連携し「リクエスト食」「カレーの日」「麺の日」などを設け、日々の食事に変化をもたらし好評であった。正月3が日は、おせち料理や海鮮・ねぎとろ丼などを提供し喜んでいただいた。また、食事の見栄えや彩りにもこだわり、食器類なども新たに購入した。

⑤ 新型コロナ対策

☞マスク着用・手洗い・消毒・うがいなどを励行し、継続的に感染症の予防に努めた。今年度は感染力が極めて強いオミクロン株による感染者が急増する中、入所者においては罹患者を出すことなく無事に過ごすことができた。

2. 行事計画・レクリエーション

☞年間行事・レクリエーションにおいては新しい企画を取り入れて、なるべく多くの入所者に参加していただけるよう工夫をして実施することができた。新型コロナウイルス感染症影響下にあり、外部のボランティア団体を招いたり地域交流をしたりすることはできなかった。

3. 修繕・修理および設備整備

☞大型厨房機器の入れ替えが3台あった。館内に設置している消火器の使用期間切れにより、全ての入れ替えと誘導灯・煙感知器の交換等消防設備関係の修繕があった。他、大規模な修繕は発生しなかった。

Ⅱ. 施設運営報告

(1) 入院・事故報告他

事項	件数	備考
入院件数	5	左肩鎖関節骨折 右足首骨折 心不全 他
救急搬送	3	転倒 他
事故報告書（千葉市）	1	脱衣所での転倒
苦情に関する受付	0	
給食業務に係る事故報告	7	納品ミス他

(2) 施設安全・衛生管理

項目	実施月
自動ドア点検	4月 10月
エレベーター点検	遠隔点検：毎月 年次定期点検：9月
電気工作物	毎月 年次点検：4月
ボイラー保守点検	5月 11月
消防点検	6月 12月
受水槽・水質調査	7月
害虫駆除・館内清掃	6月 12月（館内清掃）
消防訓練	3月

(3) 年間行事・レクリエーション

	行事	レクリエーション 介護予防運動	映画
4月			「007」
5月	菖蒲湯	・雑巾づくり ・健康体操 ・介護予防運動（5/9・16・28）	「猫侍」 「あ、春」
6月	スイーツカフェ	・健康体操（6/7・13・20・28） ・七夕飾りづくり ・介護予防運動（6/17・24・26）	「鬼平犯科帳」 「サラリーマン忠臣蔵」
7月	七夕飾り	・大人の塗り絵	「見上げてごらん夜の星を」

令和4年度事業報告

		・オリジナルハーブソルトづくり ・介護予防運動（7/13・18・24） ・健康体操（7/8・7/29）	「万引き家族」 「雨あがる」
8月		・大人の塗り絵 ・健康体操	
9月	長寿を祝う会	・健康体操	「息子」 「老後の資金がありません」
10月	コーヒーの日		「あ・うん」 「午後の遺言状」 「家に帰ると妻が必ず死んだふりをしています」
11月	創立記念日		「お早う」 「家族はつらいよ」
12月	クリスマスカフェ	・クリスマス飾りづくり ・雑巾づくり	
1月	新年会	・書初め	「山の音」 「お終活」
2月	バレンタインデー		「みんなのいえ」
3月	ひな祭り	ジグソーパズル	「相棒」 「宗方姉妹」
その他	毎日：ラジオ体操 週1回：かえで喫茶 OPEN		

(4) 委員会・給食会議

	開催回数	摘要
感染症委員会	4回	
給食会議	4回	
事故防止委員会	2回	
身体拘束 高齢者権利擁護委員会	3回	
社外研修	3回	高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修 家族への対応支援 救命講習会

Ⅲ. 入所者状況報告

- (1) 介護保険サービス利用状況
- (2) 年間入退所者数
- (3) 年齢別入所者数
- (4) 介護度別入所者数

※ (1) (2) (3) (4) 全て令和 5 年 3 月 31 日現在

(1) 介護保険サービス別利用状況

項目	利用者数
訪問介護	12
訪問看護（訪問リハビリ含）	2
通所介護（デイサービス）	11
通所リハビリテーション	7
福祉用具貸与	10
計	42

(2) 年間入退去者数 ※月初既在者

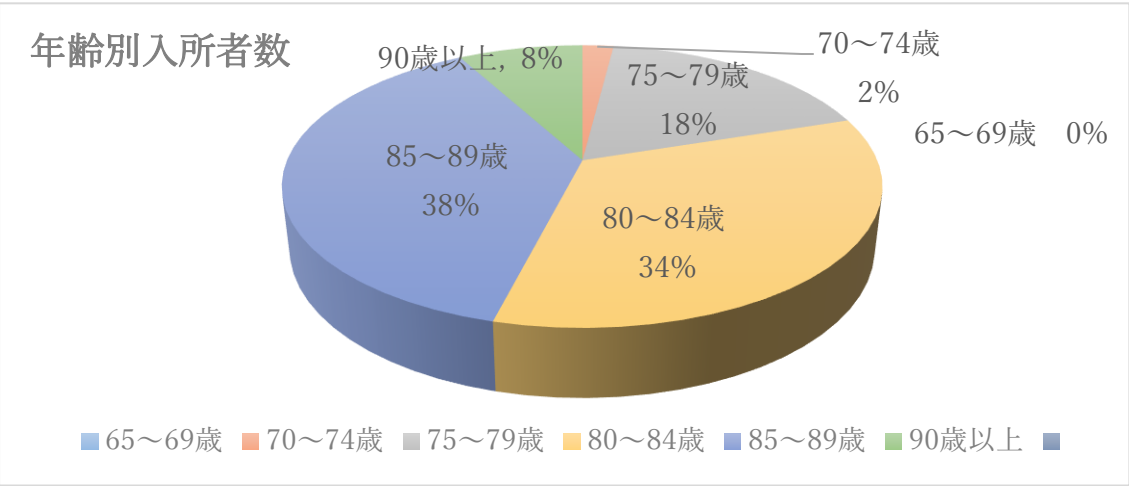
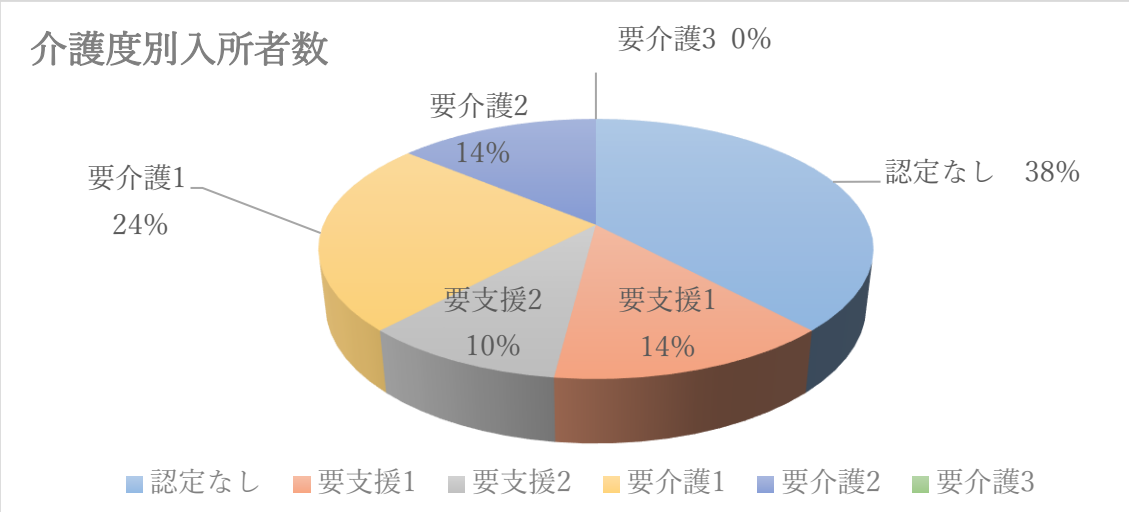
令和 4 年度入所稼働率	入居者数	退去者数
100%	8 人	6 人

(3) 年齢別入居者数

年齢別	人数	比率
65～69 歳	0	0%
70～74 歳	1	2%
75～79 歳	9	18%
80～84 歳	17	34%
85～89 歳	19	38%
90 歳以上	4	8%
合計	50	100%
平均年齢	84	

(4) 介護度別入居者数

	人数	比率
認定なし	19	38%
要支援 1	7	14%
要支援 2	5	10%
要介護 1	12	24%
要介護 2	7	14%
要介護 3	0	0%
合計	50	100%



地域密着型特別養護老人ホーム 事業報告書

(きさらぎ荘・みやのぎ荘)

I. 取り組みに対しての評価

(1) 感染症対策への継続的な取り組み

【きさらぎ荘】

きさらぎ荘において8月にユニット内においてクラスターが発生したが、看護・介護職員が協力しゾーニング（区域制限）や感染予防対策を徹底強化し、他ユニットへの感染拡大を防ぐことができた。その後、感染症が蔓延することはなかった。

【みやのぎ荘】

往診医との連携により発熱や他の症状に対して迅速に対応をおこない、年度内にコロナ感染症の罹患者をだすことなく、入所者全員無事に過ごすことができた。

(2) 若手介護職員の育成

4月には社会経験3年未満の職員を対象にしたビジネスマナーや介護の基礎研修を実施した。現場においては、若手職員によるプリセプター（マンツーマン指導）経験などを積極的に行うことで「教えることは自ら学ぶこと」を体験させた。

(3) 職場環境の整備（働きやすい職場）

介護は心身ともに疲労が蓄積しやすいことから、シフトにおいては4連勤までを最大として、有給休暇や季節休暇を積極的に活用し、ワークライフバランスの確保に努めた。

(4) 医療との連携および機能訓練の強化

365日24時間往診医と連携を強化しながら、入居者の体調に応じては即時往診対応できる体制を整えた。みやのぎ荘においては入院者数4名（平均入院期間は14日間）と減少し、年間11件の看取りをおこなった。本人・家族の意思を尊重し、状態変化における家族への報告、主治医との連携により、その方の残された日々を有意義に過ごせるよう努めた。機能訓練の強化に関しては、積極的に実施することができなかった。

次年度は機能訓練指導員を中心にADLの維持や個々の拘縮・褥瘡予防のためのポジショニングを多職種と情報共有を図り、取り組みを強化していきたい。

(5) 地域交流活性化のためのイベントの企画・実施

みやのぎ荘では3年ぶりに夏祭りを開催したが、家族および地域住民の受け入れを中止とした。コロナ禍で中断していた地域交流やボランティアの受け入れを次年度はコロナの感染状況を見据えつつも企画・実施をしていきたい。

Ⅱ. 入所者利用状況

① 年間延べ利用人数

	きさらぎ荘	みやのぎ荘
稼働率	90.2%	98.5%
年間延利用者数	9,555 人	10,392 人
入院及び空床件数	1,030 床	155 床
一日平均利用者数	26 人	28 人

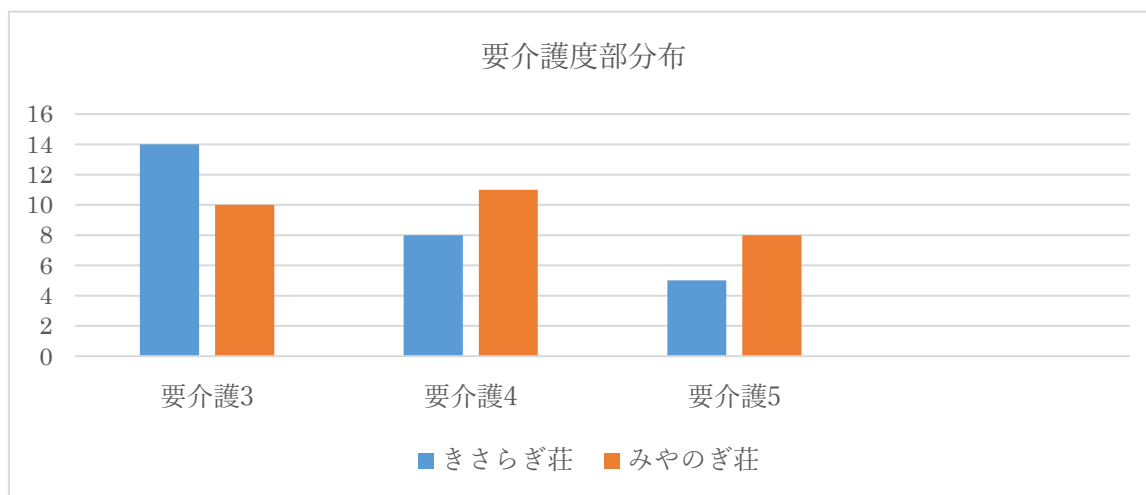
② 入退去者数

	きさらぎ荘		みやのぎ荘	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
退所者数	11 人	9 人	13 人	8 人
入所者数			11 人	
入院件数	9	9	4	9
看取り件数	6	7	11	5
他機関へ異動	5	2	2	3

③ 要介護度分布

(単位：人)

	要介護3	要介護4	要介護5
■きさらぎ荘	14	8	5
■みやのぎ荘	10	11	8



Ⅲ. 事故発生状況

(単位：件)

	きさらぎ荘		みやのぎ荘	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
転倒・転落	9	24	26	17
服薬関係	16	15	18	18
誤嚥	0	0	0	0
表皮剥離・外傷			30	15
ずれ落ち			0	0
施設離脱			0	0
合計	47	68	74	50
ヒヤリハット	97	22	86	49

Ⅳ. 苦情報告

	件数	摘要
きさらぎ荘	3	
みやのぎ荘	0	

Ⅴ. 年間行事・委員会・研修**【きさらぎ荘・うめの香】**

月	行事	委員会	研修
4月	お花見		AEDの使用方法
5月	端午の節句	身体拘束・虐待防止委員会	排泄と移動《外部》
6月	パンバイキング	感染症委員会	排泄について、認知症対応スキル向上《外部》、介護技術向上《外部》
7月	七夕とてん作り 鈴カステラ作り		緊急時対応、食中毒予防
8月	納涼祭 コサージュ作り	身体拘束・虐待防止委員会	高齢者虐待防止、オムツのあて方

令和4年度事業報告

9月	敬老会	感染症委員会	事故防止
10月	さんま祭り		感染症
11月	文化祭 見浜園外出	身体拘束・虐待防止委員会	ポジショニング、認知症介護実践者研修《外部》
12月	クリスマス会	感染症委員会	口腔ケア、介護技術総合《外部》、 認知症介護基礎研修《外部》
1月	初詣（コロナの影響で中止）		事故防止
2月	節分	身体拘束・虐待防止委員会	身体拘束廃止、認知症対応型サービス事業管理者研修《外部》
3月	桃の節句 クレープ作り	感染症委員会	認知症への理解
その他	毎日：集団体操 不定期：買物同行 月1回：お誕生日会	【会議】月1回開催 リーダー会議 給食会議 研修会議 行事会議 事故防止会議 防災・防犯会議	

【みやのぎ荘・たちばな倶楽部】

月	行事	委員会	研修
4月		身体拘束・虐待防止 事故防止・感染	新人研修 ・地域包括ケアシステム理解 ・ビジネスマナー ・事故防止
5月			清潔の理解
6月		事故防止・感染	身体拘束・虐待防止
7月	中華バイキング	身体拘束虐待防止	感染症について
8月	納涼祭	事故防止・感染	急変時について

令和4年度事業報告

9月	敬老会		認知症の理解
10月		身体拘束・虐待防止	看取り介護について
11月			ガイドライン研修 施設における緊急時など
12月	クリスマス会		7つのゼロ研修 駒場苑 坂野様による研修 記録の整備について
1月		身体拘束・虐待防止	身体拘束・虐待防止について
2月			排せつ介助の理解
3月			移乗・移動の基本

小規模多機能居宅介護事業所 事業報告

(うめの香・たちばな倶楽部)

I. 取り組みに対しての評価

「暮らしを整え、在宅生活を続けられる仕組みをつくる」を共通目標としてきたが、「通い」「泊まり」「訪問」の調整を行う上で、できる限り利用者や家族の希望に応じられるよう、その都度、管理者及び計画作成担当者が利用者や家族と相談しながら、サービスを提供できるよう努めた。また、利用者の生活歴や家庭環境も把握し、希望に応じたサービスを提供することで、利用者の生活の活性化と自立を支援した。

コロナ感染者が増加しデイサービスを一時閉鎖したりもした時期があったが、訪問介護を継続し、再開までにスムーズに対応できた。

(1) 在宅生活の実態調査

計画作成担当者による定期的なヒアリングを実施し、主に在宅での生活が困難になった場合においてどのような介入が必要かを調査した。また、特養への入所希望があった場合には申し込みへ繋げるなどの対応もおこなった。

(2) 地域の課題抽出・事例検討会の実施

コロナ禍のため実施することは出来ず、次年度は運営推進委員会内で地域住民からの聞き取りをおこない、介護保険を利用したことのない方等への情報共有を地域包括センターと連携して実施したい。

II. 利用者状況

① 年間延べ利用人数

	うめの香	たちばな倶楽部
稼働率	94.0%	99.0%
平均利用者数	27.3 人	28.7 人
宿泊利用者数	月間平均 103 人/1 日 3.4 人	月間平均 114 人/1 日 3.8 人
デイ利用者数/1 日	10.5 人	11.4 人
訪問利用者数/1 日	14.6 人	17.9 人

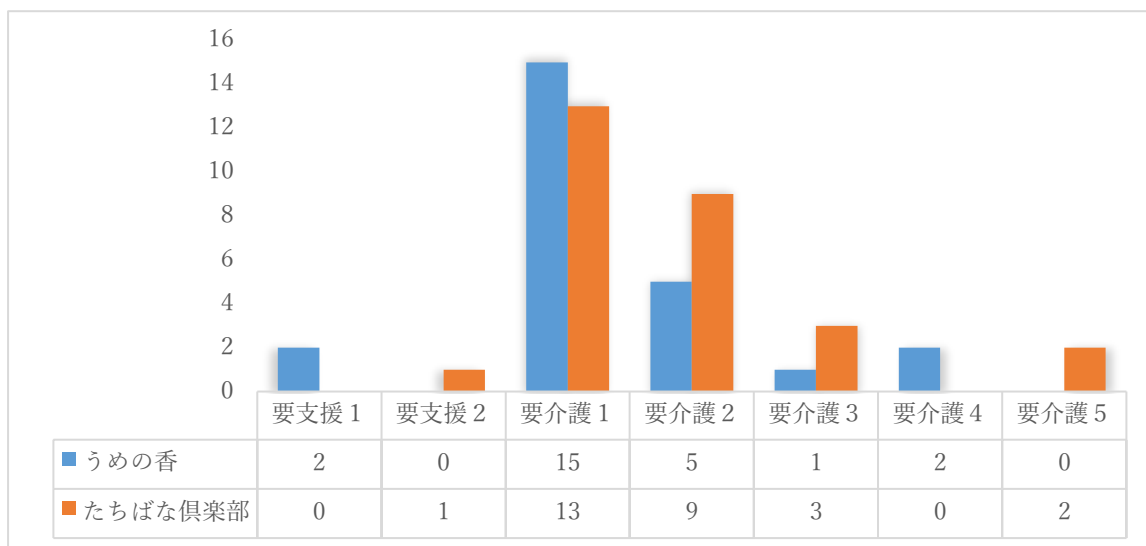
② サービス別利用割合

(単位：％)

サービス区分	通い	訪問	宿泊	全体
うめの香	37	51	12	100
たちばな倶楽部	34	54	11	100

③ 要支援・介護度別分布

(単位：人)



Ⅲ. 事故報告

(単位：件)

	うめの香		たちばな倶楽部	
	令和4年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
転倒・転落	23	10	3	5
服薬関係	12	17	3	1
誤嚥	0	0	0	0
表皮剥離・外傷			0	1
ずれ落ち			0	0
施設離脱			0	0
合計	57	41	6	7
ヒヤリハット	18	10	48	57

Ⅳ. 運営推進会議の開催報告

	うめの香	たちばな倶楽部
開催回数	2回	6回